
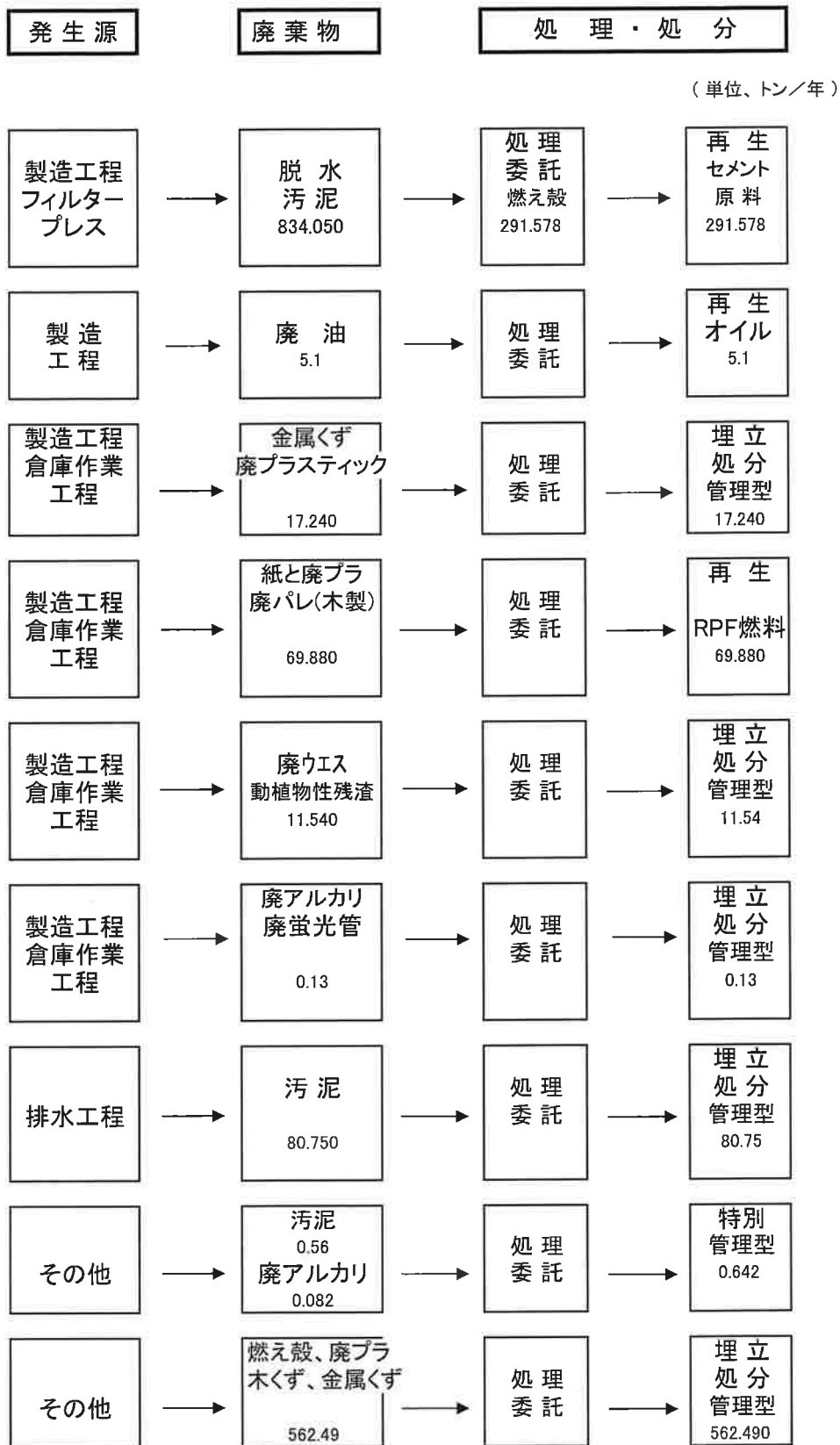


産業廃棄物処理計画書	
令和5年 6月 21日	
宮崎県知事 河野俊嗣 殿	
	提出者
	住所 宮崎県日向市大字日知屋17371番地
	氏名 第一糖業株式会社
	代表取締役社長 赤木 正樹
	電話番号 0982-52-4162
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	第一糖業株式会社
事業場の所在地	宮崎県日向市大字日知屋17371番地
計画期間	令和5年4月1日から令和6年3月31日(2023.4/1~2024.3/31)
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	大分類：製造業 中分類：砂糖精製業
②事業の規模	売上高 約83億円(前期、2022.4/1~2023.3/31)
③従業員数	55名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	廃棄物処理フロー図(図1)

廃棄物処理フロー図 (図-1)



## 産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

担当役員←総務経理室長←担当者  
 (黒木) (壹岐) (市川)

## 産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度 ( 2022 年度) 実績】				
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	動植物性残渣	廃プラ他
	排出量	915t	5t	12t	650t
	(これまでに実施した取組)				
	脱水効果アップによる取組 抑制努力				
②計画	【目標】				
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	動植物性残渣	廃プラ他
	排出量	875t	3t	12t	80t
	(今後実施する予定の取組)				
	脱水効果アップによる取組 抑制努力				

## 産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃ケーキ、廃油、廃プラ、木屑、金属屑、ガラス、陶磁器屑、汚泥 脱水効果アップによる取組・抑制努力
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 上に同じ

## 自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（                      年度）実績】				
	産業廃棄物の種類				
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量				
	(これまでに実施した取組)				
②計画	【目標】				
	産業廃棄物の種類				
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量				
	(今後実施する予定の取組)				

## 自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（                      年度）実績】				
	産業廃棄物の種類				
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量				
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量				
(これまでに実施した取組)					
②計画	【目標】				
	産業廃棄物の種類				
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量				
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量				
(今後実施する予定の取組)					

## 自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（            年度）実績】				
	産業廃棄物の種類				
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量				
	(これまでに実施した取組)				
②計画	【目標】				
	産業廃棄物の種類				
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量				
	(今後実施する予定の取組)				

## 産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（ 2022 年度）実績】				
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	動植物性残 渣	廃プラ他
	全処理委託量	915t	5t	12t	650t
	優良認定処理業者への 処理委託量	0.56 t	5.1 t	0t	17t
	再生利用業者への 処理委託量	834t	0t	0t	70t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0	0	0	0
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0	0	0	0
	(これまでに実施した取組)				
	脱水効果アップによる取組 抑制努力				

②計画	【目標】				
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	動植物性残渣	廃プラ他
	全処理委託量	875t	3t	12t	80t
	優良認定処理業者への処理委託量	-	-	-	-
	再生利用業者への処理委託量	875t	3t	12t	80t
	認定熱回収業者への処理委託量	0	0	0	0
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0	0	0	0
<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>脱水汚泥が全体の半分を占めている。脱水汚泥はセメント原料として再利用されているが、脱水率を高めることによって発生量を減らしていく方針である。ただし、砂糖の製造量にも比例して増加することとなるので砂糖の販売数量が増えると増加は避けられない。</p> <p>また昨年度はその他要因によるものが産廃排出量に大きな影響を与えているが、あくまで一過性の要因によるものであるため今年度への影響は小さいと思われる。</p>					
※事務処理欄					